

## グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	済州国際青少年フォーラム		訪問国		韓国	
校内発表会の有無	有	(有の場合)	日にち	12月23日	(対象)	全校
学校名	県立科学技術高等学校	氏名	秋山 輪人		学年	2年

### 1 目的・応募理由

私が今回、済州国際青少年フォーラムのプログラムに参加したいと思った理由は、主に次の2つです。

1つ目は、世界で取り上げられているさまざまな問題について、国によって異なる意見や考え方を直接聞きたいと思ったからです。近年、環境問題や生成AIなど明確な「正解」がないテーマが増え、国ごとに経済状況や文化が異なるため、課題に対する考え方や対策も大きく違うはずです。私は、こうした多様な視点を知り、自分の考えを深めたいと感じました。

2つ目は、国際交流を通して海外の友達をつくりたいと思ったからです。日本で生活していると外国の方と関わる機会は多くなく、同じ日本人が周りになると積極的になれないこともあります。実際に海外の同世代とつながり、その地域でどんな話題があるのか、どんな価値観を持っているのかを知りたいと思いました。

### 2 研修内容等（語学研修等の授業日程、休日の過ごし方、ホストファミリーなど）

今回の研修では、大きく3つの観点から、海外の参加者との交流を深めました。

#### 【テーマ別のディスカッションと発表】

環境問題・生成AI・心理的不安の4つのテーマに分かれ、テーマごとにグループで話し合い、どのようにその問題を発信するかを考えました。私のグループは「環境問題」を担当しました。問題への感じ方や必要な対策に関しては、国が違って共通する意見が多く驚きました。私たちは「劇」で発表することにし、分かりやすく伝わる構成を工夫しました。発表後、先生方から「環境問題への考えがよく伝わっていた」と評価していただき、大きな達成感を得ました。

#### 【済州島のフィールドワーク】

研修では、済州島がどんな場所なのかを観光名所を巡りながら学びました。済州島は温暖で、みかんやマンゴーなどの栽培が盛んです。みかん農



園ではみかん狩りを体験しました。他にも、済州最大の現代アート美術館を訪れ、自然を生かした独創的な作品を鑑賞しました。済州島は落ち着いた雰囲気、日本と似た安心感があり、現地の方の温かさも印象的でした。

### 3. 国際交流

今回の研修では、さまざまな国の生徒と交流し、お互いの文化や地域的话题を共有することが中心でした。私の班には、中国・オマーン・台湾・ハワイなどの生徒が参加しており、学校生活や流行など幅広く話すことができました。夜も部屋でミニゲームをして親睦を深めるなど、日本とは異なる価値観に触れられる貴重で刺激的な時間でした。



### 3 感想等

今回の留学を通して、私は多くのことを経験しました。その中でも特に学んだのは、テーマに関する議論や文化体験だけでなく、日本人としての“国際的な語学力”と“コミュニケーション力”の重要性です。私も決して英語が流暢に話せるわけではなく、発音やスピーキングで困ることが何度もありました。しかし、それでも多くの海外の生徒と関わることができました。その理由は、言葉だけではなく「リアクション」を大切にしたからです。完璧に理解できないときでも、表情や反応をしっかり示し、相手の話に気持ちを向けることで、思った以上に会話は成立します。そしてもう一つ必要だったのが、「一歩踏み出す勇気」です。うまく話せない、会話に入れないかもしれないという不安はたくさんありましたが、その気持ちのまま立ち止まるのではなく、自分から新しい輪に入っていくことで、言葉の壁を越えて多くの生徒と仲良くなることができました。これらの経験から、「挑戦すること」の大切さを強く実感しました。英語は国によって発音も違い、話題が合うかどうか分かりません。しかし、自分が勇気を持って踏み出せば、その気持ちに応えてくれるように結果がついてきます。この学びは、外国人との交流だけでなく、これからの私の日常生活でも生きてくると思います。できないと決めつ



けたり、失敗を恐れたりするのではなく、「まず挑戦してみる」という姿勢を持つことの大切さを学びました。今回の研修は、私に新しい目標を与えてくれました。もっと海外の人と交流し、現地の文化に触れながら、多様な価値観にふれてみたいという思いが強くなりました。

## グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	済州国際青少年フォーラム		訪問国	韓国		
校内発表会の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無	(有の場合)	日にち	12月23日	(対象)	<input checked="" type="checkbox"/> 全校 ・ 学年
学校名	県立科学技術高等学校	氏名	大石維菜		学年	2年

### 1 目的・応募理由

私がこの研修に参加したいと思った理由は、様々な国から来る高校生と共に今の社会問題について話し合い、私たちに何ができるのか考え、国際的な視野を広げたいからです。また、言語の違う者同士でグループを組むため、工夫してコミュニケーションを取ることが必要になります。ジェスチャーを使ったり、英語を使ったりして国際交流をして多文化共生の第一歩になると思ったからです。多文化共生は、お互いが歩み寄ることで深まります。私たち一人ひとりが日々の生活の中で意識し、実践していくことで、より豊かで多様な社会を築き上げていくことができると思います。

### 2 研修内容等（語学研修等の授業日程、休日の過ごし方、ホストファミリーなど）

1日目は、飛行機の都合で最初のアクティビティには参加できず、パネルディスカッションからの参加になりました。

2日目はオープニングセレモニーの後、日本人同士で写真を撮る時間があり、同じ班の日本の方と話すことができました。午後にはフィールドワークとグループディスカッションがありました。フィールドワークでは近代美術館を訪れ、不思議な感覚を味わいました。その後のパネルディスカッションでは、グループごとに現代の社会問題について取り組みました。



3日目は、同じ班の子からたくさんお土産をもら

い、その中の一人には似顔絵まで描いてもらいました。午前中はパネルディスカッションの仕上げとリハーサルを行い、午後に発表がありました。何百人もの前でのプレゼンはとても緊張



しましたが、同じ班の仲間がたくさん励ましてくれたおかげで無事にやり遂げることができました。夕食後にはK-POP learningがあり、プロのダンサーの方にダンスを教えてもらいました。ベストダンサーにも選ばれ、和菓子をいただきました。とても楽しく、1番思い出に残った時間でした。

4日目は、朝ごはんの後にフィールドワークへ行きました。植物園やビーチ、みかん畑を回りました。夜はクロージングセレモニーの後にカルチャーナイトがあり、お土産を配り合ったり、踊ったり歌ったりして、お祭りのように盛り上がりました。

### 3 感想等

初めてパネルディスカッションの部屋に入ったとき、すでにみんなが仲良くなっていて、途中から参加した私はうまく馴染めるかとても不安でした。初めてネイティブの英語を聞き、スピードも速く、話がどんどん進んでいくので、理解しようと一生懸命耳を傾けました。私たちのグループのテーマは「a peaceful and inclusive community（平和で包括的なコミュニティ）」でした。



自分の書いたエッセイを数人ずつで共有する場面では、緊張でうまく言葉が出てこなかったのですが、徐々に落ち着いて参加できるようになっていきました。その後、内容が似ているメンバー同士でグループに分かれ、再度ディスカッションを行いました。私のグループは5人で、私以外の4人は全員中国の学生でした。最初はみんな仲がよさそうで、少し気後れしてしまっていたのですが、実際にはとても親切で優しく接してくれて、とても嬉しかったです。私がどうしたらよいか迷っていたとき、同じ班の子が「このトピックをあなたに任せたい！あなたならきっと素敵なものができるよ！」と声をかけてくれ、勇気をもらいました。

このフォーラムでは、多文化について考えを深めたり、新しい知識を得たりできただけでなく、同じ場所で生活を共にするなかで、生活面でも大きく成長できたと感じています。これまでは新しいことや初対面の人に自分から話しかけることがあまり得意ではなかったのですが、今回の経験を通して、積極的に行動できるようになった気がします。他の国の参加者と話していると、「こんにちは」や「いただきます」などの日本語を使ってくれる人もいて、とても嬉しかったです。私も日本語や英語だけでなく、いろいろな言語を話せるようになれば、もっとコミュニケーションが楽になり、多文化の人たちとのつながりも深まると感じました。

今回学んだことや経験したことを、将来の仕事にも活かし、地域の活性化に貢献できるようになりたいです。



## グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム		済州国際青少年フォーラム		訪問国		韓国	
校内発表会の有無		○有・無		(有の場合)		日にち 12月23日	
(対象)		○全校・学年		学年		2年	
学校名	県立科学技術高等学校		氏名	小林 妃来里		学年	2年

### 1 目的・応募理由

私が済州国際青少年フォーラムに参加した理由は、主に次の2つです。

1つ目は、他国の文化や人々の考え方に直接触れてみたいと思ったからです。私は、それぞれの国で考え方がどれほど違うのか深く意識したことがありませんでした。しかし、実際に調べたり交流したりする中で、自分では気づけなかった違いを発見できるのではないかと感じました。日本にいてだけでは分からない価値観や生活の違いを自分の目で見て感じることで、自分の視野を広げたいと思いました。

2つ目は、日常生活の中で英語を実際に使ってみたいと考えたからです。私はこれまで一度も海外に行ったことがなく、英語だけで1日過ごすような機会もありませんでした。そのため、英語を使わざるを得ない環境に身を置き、自分の力を試してみたいと思いました。

### 2 研修内容等（語学研修等の授業日程、休日の過ごし方、ホストファミリーなど）

- 一日目 オリエンテーション、パネルごとの顔合わせ
- 二日目 開会式、フィールドトリップ（済州現代美術館、芸術村）、パネルディスカッション準備
- 三日目 パネルディスカッション準備、パネル発表、K-POP ダンス学習
- 四日目 フィールドトリップ（済州公園、海岸、観光農園）、閉会式、カルチャーナイト
- 五日目 帰国



※一日目は研修場所に着いたのが遅かったため、顔合わせのみ参加した。

#### <パネルディスカッション>

1つのパネルには生徒17～18人、先生1～2人が参加し、与えられた議題についてプレゼンテーションを作成しました。スライド作成や発表方法などの役割分担もすべて自分たちで話し合っ決めてました。ディスカッションでは自分の意見を積極的に出すことに苦労



しましたが、周りのサポートもあり、無事に発表をやり遂げることができました。

#### <カルチャーナイト>

各国が自分たちの文化を紹介する歌やダンスを披露しました。私たちは法被を着て「港かっぽれ」を踊りました。他の国の参加者は、披露の途中にお菓子やぬいぐるみを配ったり、自国に関するクイズを出したりするなど、とても工夫されていました。日本ではなかなか味わえないほど会場全体が盛り上がっていて、とても楽しい時間でした。

### 3 感想等

今回の済州国際青少年フォーラムを通して、私が最も強く影響を受けたのは、他国の生徒の「積極性」と「行動力」です。私は普段から自分の意見をはっきり伝えることがあまり得意ではなく、特に英語でのコミュニケーションに対しては大きな不安がありました。五日間の中でも、「英語でちゃんと伝えられるだろうか」「相手の話が聞き取れなかったらどうしよう」という気持ちから、自由時間に一人で過ごしてしまう場面が何度かありました。しかし、他国の生徒たちの姿は私の予想を大きく超えていました。パネルディスカッションでは、誰かが意見を述べるとそれに対してすぐに反応し、自分の考えを積極的に共有していました。先生に指名されなくても、自然と次々に発言が生まれ、議論が止まることなく進んでいく様子を見て、「同じ年代でもこんなに違うんだ」と強い刺激を受けました。さらに、印象的だったのはフィールドトリップへ向かうバスの中での出来事です。私は最初、知っている人がいない不安から一人で座っていました。しかし、ある生徒が声をかけて隣に座ってくれ、そのままお互いの国のことや学校生活について自然に会話が始まりました。私のつたない英語にも根気強く耳を傾けてくれ、笑顔で会話を続けてくれたことがとても嬉しく、自信につながりました。こうした交流を重ねる中で、他国の生徒たちの「まずは話してみる」「気になったら行動する」という姿勢が、本当に素晴らしいと感じました。そして、自分ももっと積極的になりたい、自分の思いを恐れずに伝えてみようという気持ちが芽生えました。今回の経験を通して、英語力だけではなく、国際的な場で必要になる行動力やコミュニケーションの大切さを実感しました。これからも英語の学習を続けると同時に、自ら一歩踏み出す勇気を持ち、多くの国の人たちと交流できるようになりたいと思います。



## グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	済州国際青少年フォーラム		訪問国	韓国		
校内発表会の有無	有	(有の場合)	日にち	12月23日	(対象)	全校
学校名	県立科学技術高等学校	氏名	野川 妙恵		学年	2年

### 1 目的・応募理由

今回、私が済州国際青少年フォーラムに参加した大きな理由の一つは、自分の視野を広げたいと思ったからです。普段の学校生活では、海外の文化や価値観に直接触れる機会が多くありません。そのため、さまざまな国や地域の人たちと約1週間生活を共にしながら交流することで、異文化を体感し、日本の文化の良さや他国の文化の魅力を改めて知りたいと考えました。また、国際的な問題について異なる背景を持つ参加者と意見を交わすことで、自分にはなかった視点や考え方を学び、社会的視野を広げたいと思いました。

2つ目の理由は、実践的な英語力の向上です。英語の授業や英語の検定試験だけでは、英語に触れる機会が少なく、自分の英語力がどの程度なのか、英語のみの環境に身を置くことで、自分自身の英語力を試してみたいと思ったからです。

### 2 研修内容等（語学研修等の授業日程、休日の過ごし方、ホストファミリーなど）

1日目：オリエンテーション

2日目：開会式、フィールドトリップ（美術館）、  
ディスカッション

3日目：プレゼン準備・発表、K-pop 講座

4日目：フィールドトリップ（植物園、ビーチ）、  
閉会式、カルチャーナイト

5日目：帰国



#### 【ディスカッション、プレゼンテーション】

私たちのグループは、AIの倫理的な使い方について話し合い、ドラマを制作して発表しました。話し合いの時間は、英語を第一言語とする国のメンバーや英語が得意なメンバー中心となって進行してくれ、意見を伝える時間を作ってくれ、私のつたない英語を理解し、的確な表現にまとめたりしてくれました。また、ドラマの原稿や編集作業、エンディングの歌の制作を分担して行い、トピックに沿った約8分の作品をグループ全員で作りました。私は、先生役で出演しました。



#### 【フィールドトリップ】

2日目は美術館、芸術村、4日目は植物園、ビーチ、みかん農園に行きました。日本とは違う世界観のある芸術作品やきれいに管理された植物、ユニークな形の建物などを見ることがで

き、とても印象的でした。濟州島はみかんが名産で、移動中のバスの中でもみかんが配られました。

#### 【その他のプログラム】

開会式や閉会式、カルチャーナイトでは、それぞれの地域の民族衣装や伝統的な歌や踊りなどを見ることができました。私たちは、法被を着て清水港まつりで行われる「港かつぼれ」を披露しました。特にアメリカや現地の生徒たちがノリ良く盛り上げてくれ、楽しい雰囲気でした。



#### 【部屋・食事など】

私は中国の方とカナダの方との3人部屋でした。部屋にいる時間は多くなかったものの、お風呂の順番や鍵の受け渡しなど、生活に必要なやり取りを英語で行うことができました。食事はルームメイトと一緒に食べることもあれば、今回参加した友達と食べることもあり、毎回楽しい時間でした。

### 3 感想等

私にとって、このフォーラムへの参加はとても貴重な経験になりました。特に1日目と2日目は、英語が思うように聞き取れず、話そうとしても言葉がすぐに出てこないことが多く、自分の英語力の課題を実感しました。しかしその一方で、自分の英語が相手に通じたり、意見をしっかり伝えられたりしたときには大きな喜びがあり、これまでの学習で身につけてきた力も確かにあると感じることができました。フィールドトリップのバス移動の際に、初めてモンゴルの方と翻訳機を使わずに会話し、お互いの国や学校について話すことができたことは、とても印象に残っています。また、初日のオリエンテーションで、ディスカッショングループに日本人が自分1人しかいないと知ったときは驚きました。しかし、先生や周りの参加者が私の言いたいことをくみ取ってくれたおかげで勇気をもらえ、また、自分自身も積極的に話すように努力したことで、2日間の話し合いにしっかりと参加できたことがとても嬉しく感じました。ドラマ制作では練習時間を調整してくれたり、作業ができるようにパソコンを貸してくれたり、本当に親切にしてくれました。ドラマでは先生役を果たせたことは自信につながりました。出発前から現地での4日間まで、多くの人に支えられていることを強く実感しました。

今回の経験を通して、日本だけでなく国際的な社会問題にも目を向けられるようになり、これからも自分の英語力を伸ばすために学習を続けたいという思いが一層強まりました。このように、さまざまな国や地域の方々と交流し、英語だけでなく精神面でも成長できる機会をいただき、本当にありがとうございました。

